岐阜県における東海自然歩道の建設過程とその意義

岐阜大学　学生会員○宮地　翔
正会員　出村　嘉史

1. はじめに

東海自然歩道は，昭和 44 年に厚生省国立公園部に所属する大井道夫によって発案された．厚生省は「構想原案」として，大まかな自然歩道の経由地を選定（**図 1**）していた[1]が，事業主体を地方自治体にして，詳細な経路選定から歩道建設までを委ねていた．そのため，経由する地域によって，個性ある自然歩道が完成した．

これまで東海自然歩道の構想は，自然保護策よりも「歩くことの復権」や「人間性の回復」，「自然とのふれあい施策」などの自然利用策に焦点があてられてきた[2]．しかし，東海自然歩道には，高密度に設定された自然公園地帯によってグリーンベルトを形成させ，大都市周辺の自然環境を保護する目的があった[3]．そのために，自然歩道の両側 100m を国定公園に指定する公園計画が検討されていた[4]．東京から大阪までを結ぶ東海自然歩道は，このグリーンベルトの中心線となるように建設された[5]．ただし，この公園計画は，愛知県から京都府にかけての一部の区間における 4 つの新規指定と 4 つの区域拡張（**図 2**[6]）にとどまり，東京・大阪間を結ぶようなグリーンベルトは形成されなかった．岐阜県は，国定公園の指定を実現させた数少ない県の一つであった．本研究では，歩道建設による自然利用策だけでなく，自然保護策であった公園計画にも焦点をあてながら，岐阜県において東海自然歩道構想がどのように実施されたのか把握し，県のねらいを明らかにすることを目的とする．

2. 岐阜県における歩道建設と公園計画

(1) 歩道建設

岐阜県は，厚生省が策定した「構想原案」に対し，愛知県側のルートを根本的に変更させる要望を出した[7]．昭和 44 年 1 月 26 日には，新たな東濃コースとして，追加要請[8]を行っていた．厚生省が同年 5 月に発表した「最終路線案[9]」には，県の要望した東濃コースが追加（**図 3**[10]）されている．県知事は，昭和 44 年 1 月 15 日の時点で，厚生省に対しモデルコースの誘致を行っている[11]．この要望は，同年 2 月 9 日に承認[12]され，実際にモデルコースが県内に建設[13]された．このように岐阜県は，構想発表の直後から迅速かつ意欲的な姿勢で，自然歩道建設に取り組んでいた．

詳細な経路選定についても，厚生省からの補助金に頼らず，県単独で調査に乗り出そうとしていた[14]．昭和 44 年 8 月 20 日から 1 か月かけて，県は全コースの現地踏査を行った．その結果，「都市化する地域を避け，自然を楽しみ，文化財など興味地点を多く取り入れるという旨にそぐわないところがいくつかあることがわかった[15]」と再検討を行っている．このように岐阜県では，自然歩道の周辺環境にも配慮しながら，経路選定が行われていたようだ．しかしながら，県下の自然歩道の一部は，市街地を経由するだけでなく，県道を利用した．その区間は，東海自然“車”道と揶揄される[16]ほど，自動車の交通量が多く，自然歩道として不適格であった．このように完成した東海自然歩道は，必ずしも自然歩道として相応しいものではなかった．

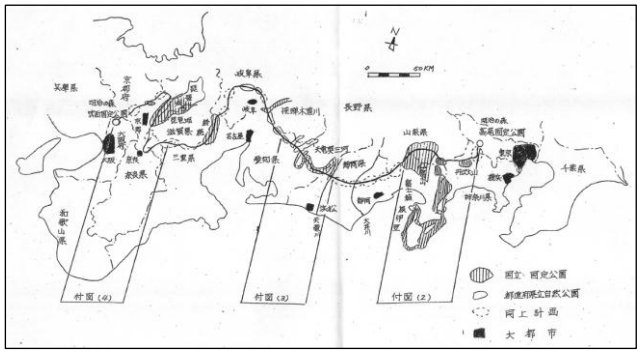

図 1「構想原案」の計画路線図と公園配置図

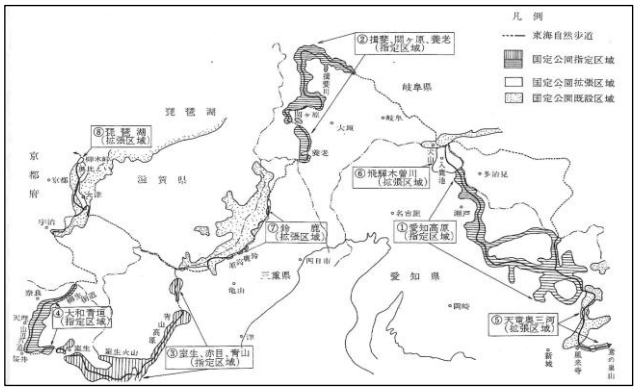

図 2　一部，実現された帯状の自然公園地帯

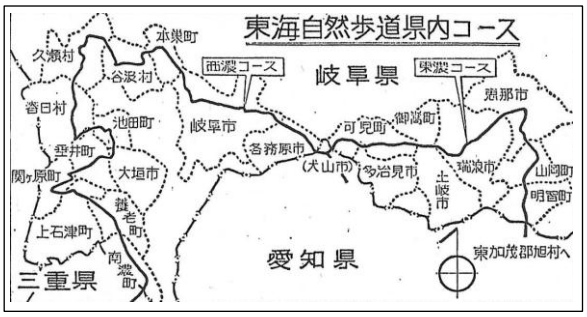

図 3　東濃コースが追加された県内経路図

(2) 公園計画

昭和44年8月に実施された全コースの現地踏査の項目には「自然歩道沿線の両側 100m を国定公園化することの検討[17]」があった．昭和 45 年 12 月に，西濃コースの区間において，揖斐・養老・関ヶ原国定公園が指定[18]された．この国定公園は，自然歩道に沿うように指定され，**図 4**[19]のようなグリーンベルトの形成が確認できる．ただし，この国定公園の区域は，元々，「揖斐及び伊吹県立自然公園の区域並びに養老山系一帯の地域」[20]であり，比較的容易に国定公園を指定できる状況であったと推測できる．

一方，東濃コースでは，新たな国定公園は指定されていない．しかし，構想当初には，東濃コースにおいても新たな国定公園を指定する計画があった．県観光課の「東海自然歩道整備計画の概要[21]」（昭和 45 年 9 月 21 日作成）には，「美濃・奥三河高原国

定公園の新設　本件内は惠南地域」,「飛騨木曽川国定公園の区域拡張　旧中山道沿線の地域」と公園計画が記述されている．つまり，岐阜県は歩道建設だけでなく,自然保護にも意欲的姿勢がうかがえたが,すべての公園計画が実現したわけではなかった．

3. 厚生省，市町村の動向と県のねらい

岐阜県の取り組んだ歩道建設と公園計画の顛末を一望すると，必ずしも県の思惑通りに推進されたわけではなかった．これらの事象を検証するために，構想元の厚生省の方針や市町村の意向について整理する．

(1) 厚生省，市町村の動向

昭和 45 年 3 月，厚生省は地方自治体に対して，予算削減のために「既存の道路の活用」を求める要請[22]を出した．県はすでに「昨年中（昭和 44 年）に，何回も全コースを現地調査，地元市町村とも協議のうえ，コース決定[23]」していたが，要請通りに再調査を行ったようだ．この厚生省の方針転換が，歩道経路を市街地に誘発したために，自然歩道として相応しくない区間も，東海自然歩道として利用された可能性がある．

東濃コースが通過する各務原市では，市企画課や商工観光課が，公園指定によって都市開発が阻害されると懸念し，国定公園の返上を考えていた[24]．さらに，各務原市は，東海自然歩道の一部を観光道路として作り変える計画を立案[25]していた．このように県レベルだけなく，市町村レベルで動向を整理すると，自然保護よりも開発重視の意向がうかがえる．

(2) 岐阜県独自のねらい

このような状況の中、岐阜県はどのようなねらいをもって東海自然歩道構想を推進したのだろうか．昭和 44 年 1 月 26 日の新聞記事には,「県内の観光開発とからめて理想的なコースにする[26]」とあり，県は構想当初から観光事業を意識していたようだ．東海自然歩道構想は,県観光課,県教委社会教育課,青少年センターによって推進[27]されていた．特に県企画開発部観光課長は，東海自然歩道構想を県下の観光開発事業として期待[28]していた．昭和 45 年 7 月には、県の観光開発委員会が「岐阜県観光開発―構想計画報告書Ⅲ[29]」において，東海自然歩道を県下の観光ネットワーク構築の有効な手段として位置づけた．先述した自然歩道の一部を観光道路に作り変える計画に，県も賛同的な姿勢[30]であったようだ．このように，岐阜県における東海自然歩道の構想は観光事業としてのねらいが推進力となっていたようだ．

4. おわりに

岐阜県は意欲的に東海自然歩道構想に取り組んでいた．しかし，必ずしも県のねらい全てが，計画通りに達成できたわけではなかった．自然歩道の建設については，県道を利用する歩道となった．公園計画についても，実現しなかったものがあった．これらの要因を整理するために，厚生省の方針転換によって，再調査された路線修正を調査し，その路線が経由する地形や土地利用について把握する．

岐阜県には観光事業としてねらいがあったようだ．一方で，県は自然保護に対しても意欲的であり，観光資源としての意義だけではなかったと考えられる．そこで観光事業の視点から，期待された自然歩道の効果や観光戦略について，公園事業の視点から，自然歩道の自然保護策としての位置づけを明らかにする．結果，自然利用策，自然保護策の両面から，県が独自に考えていた自然歩道の意義を明らかにする．

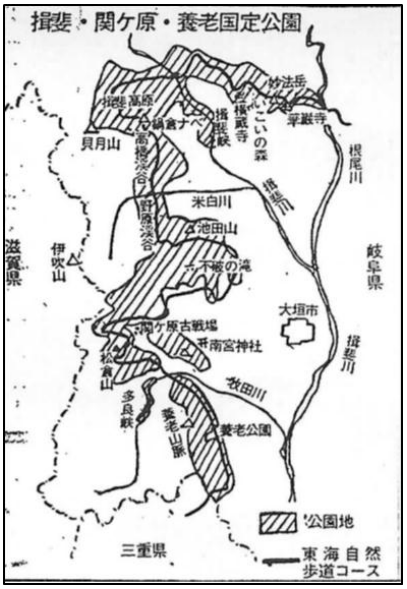

図 4　自然歩道に沿って指定された国定公園

【参考文献】

1)厚生省国立公園部(1969.1)「国民自然歩道の構想　第１次計画　東海自然歩道について」環境省自然環境局自然環境課蔵,pp.1-8

2）島田直幸，赤土攻，伊藤訓行，小野寺浩(1985)「国土の環境保全」『造園雑誌』48(4)，p.228,
東海林克彦(1988)「自然風景地の整備に関する環境庁の取り組み」『ランドスケープ研究』62(2)，pp.109-111
油井正昭，笹岡達男(1990)「自然公園行政の現状と展望」『造園雑誌』53(3)p.198
黒田大三郎(2003.8)「長距離自然歩道の全国ネットワーク構築へ」『国立公園』617，p.6

3）大井道夫(1970.6)「東海自然歩道の構想」『望月』p.94

4）大井道夫(1969.2)「東海自然歩道の構想」『国立公園』231･232，p.8

5）同上　大井道夫(1969.2)「東海自然歩道の構想」p.1

6）国立公園協会(1971.2)「東海自然歩道沿線四国定公園を新しく指定 四国定公園を拡張」『国立公園』，255･256，p.21

7）中日新聞(1969.4.25)「東海自然歩道　県案まとめる　東濃コース加える　愛知県側のコース変更必要」8 面

8）中日新聞(1969.1.26)「県内コース選定へ」8 面(岐阜県版)

9）中日新聞(1949.5.4)「明智城跡（岐阜）や中山道　東海自然歩道の最終案　見どころ 8 ヵ所加わる」14 面

10）毎日新聞(1969.6.4)「動き出す県内コース　新設路は 1 割くらい　近く市町村ごとに歩いてみる」16 面(岐阜県版)

11）岐阜日日新聞(1969.1.15)「県も積極的に事業 知事「東海自然歩道」で語る」12 面

12）中日新聞(1969.2.9)「岐阜，三重にモデルコース 新年度中に建設」14 面

13）岐阜日日新聞(1969.2.7)「モデルコースに 厚生省計画を一年繰上げ」13 面

14）毎日新聞(1969.1.26)「県内コース選び　開発とからめて積極姿勢」16 面

15）岐阜日日新聞(1969.9.17)「今月中に最終決定 県内の自然歩道コースは一部変更」

16）朝日新聞(1975.5.9)「これではまるで東海自然，車道」3 面

17）岐阜日日新聞(1969.8.7)「きょう打合わせ会　東海自然歩道　県内コース現地踏査」12 面

18）岐阜日日新聞(1970.12.1)「揖斐関ヶ原養老を指定　自然公園審新規に四国定公園」1 面

19）岐阜日日新聞(1970.12.28)「きょう正式発足　揖斐・関ヶ原・養老国定公園」1 面

20）岐阜県観光課(1970.9.21)「東海自然歩道整備計画の概要」岐阜市歴史資料館蔵

21）同上　「東海自然歩道整備計画の概要」

22)岐阜日日新聞(1970.3.3)「コースの再調査へ　厚生省が方向転換」14 面

23）同上　「コースの再調査へ　厚生省が方向転換」

24）毎日新聞(1969.10.18)「国定公園返上の考え　大がかりな都市開発で」20 面(岐阜版)

25）中日新聞(1971.12.1)「東海自然歩道　一部をドライブウエーに各務原市が計画　岐阜県も全面あと押し」14 面

26）同上　「県内コース選び　開発とからめて積極姿勢」

27）中日新聞(1969.1.26)「県内コース選定へ」8 面(岐阜県版)

28）同上　「現代に自然の息吹 県観光開発にもひと役」

29）岐阜県観光開発計画委員会(1970.7)『岐阜県観光開発―構想計画報告書Ⅲ』pp.323(1)-(3)

30）中日新聞(1971.12.1)「東海自然歩道　一部をドライブウエーに各務原市が計画　岐阜県も全面あと押し」14 面